

令和6年度（2024年度）
大分大学医学部看護学科学学校推薦型選抜
試験問題

小論文

(注意)

1. 問題冊子は試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
2. 小論文は全部で2問題あり、合計3ページあります。また、解答用紙は4枚、下書き用紙は4枚あります。
3. HB又はFの鉛筆もしくはシャープペンシルで書き、万年筆、ボールペン、色鉛筆などは使用してはいけません。
4. 監督者の指示に従い、解答用紙の所定欄に受験番号・氏名をはっきり記入しなさい。
5. 解答は横書きとし、マス目がある解答欄には1マスに1字記入しなさい。句読点は1字とします。ただし、ローマ字、数字はマス目にこだわりません。
6. 答案のはじめに問題の文章を転記する必要はありません。
7. 下書き用紙は自由に使用してかまいません。
8. 問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ってください。

問題1 下記の文章を読んで設問に答えなさい。

私の現在の監督業の原点とも言える出来事が1990年の8月、高校2年生のときに起こりました。当時、在籍していた慶應義塾高校野球部の夏の大会が終わり、前監督である上田誠先生が監督に着任。新チームが始動した当初の練習で、上田監督が次のような言葉を我々、選手たちに告げました。

「セカンドへのけん制の新しいサインを、自分たちで考えてみなさい」

この言葉は私にとって非常に印象的でした。サインは指導者が考えるもので、選手はそれに従うだけ。そういう価値観しか持っていなかった私は「そんなことをしていいんだ」と非常に驚きました。まさにパラダイムシフトとも言える瞬間でした。

その日の全体練習後の夕方、セカンドへのけん制に関わる投手、捕手、内野手が集まり、必死に議論を重ね、新しいサインを考えていきました。気付けば、あたりは真っ暗になっており、皆、それほどまでにのめり込んでいたのです。そして数日後の練習試合で実践すると、見事に決まってアウトを取ることができました。

この経験は本当にたくさんのことを教えてくれたと思います。

(出典：森林貴彦：Thinking Baseball－慶應義塾高校が目指す“野球を通じて引き出す価値”、東洋館出版社、2020年より抜粋)

設問 下線部分について、その理由やその時の選手たちの心境を推察しつつ、自主的に行動し、決定することに対するあなたの考えを述べなさい。(800字以内)

問題2 下記の寓話とそれに対する筆者の考察を読んで、3ページの設問に答えなさい。

三人のレンガ職人

旅人が、建築現場で作業をしている人に「何をしているのか」と質問した。

一人目の作業員は「レンガを積んでいる」と答えた。

二人目の作業員は「壁を造っている」と答えた。

三人目の作業員は「大聖堂を造っている。神を讃えるためにね」と答えた。

三人とも「レンガを積む」という同じ仕事をしているのに、「何をしているのか」という質問に対する答えが異なっている。

一人目の職人は「レンガを積んでいる」という行為そのものを答ただけである。

二人目の職人は「壁を造っている」というレンガを積むことの目的を答えた。

三人目の職人はまず「大聖堂を造っている」という壁を造る目的を答え、同時に「神を讃えるためにね」という大聖堂を造ることの目的を付け加えている。

人間の行為は必ず「何かのために、何かをする」という構造を持っている。一つの行為の目的にはさらにその目的が存在する。「目的と手段の連鎖」と呼んでもいいだろう。寓話を例にとれば、レンガを積む→壁を造る→大聖堂を造る→神を讃えるという構造になっている。上位の目的が下位の目的を決めてコントロールしているのだ。

私はこの寓話から二つの教訓を読みとろうと思う。

第一に、できるだけ広く「目的と手段の連鎖」をイメージして仕事をするのが有益であるということ。一人目の職人より二人目の職人、二人目の職人よりも三人目の職人の方が有意義な仕事ができることは容易に想像できる。

ドストエフスキーは、人間にとって最も恐ろしい罰とは、「何から何まで徹底的に無益で無意味な労働」を一生科すことだと言っている。朝からレンガを積み上げ、夕方に一日かけて積み上げたレンガを壊すという仕事を想像してみよう。これは、まったく意味のない仕事である。

実際の仕事の場面ではこれほど無意味な仕事を与えられることはまずないだろう。しかしながら、その仕事を持っている意味を十分に分かっていないまま仕事をしていたり、非常に狭い範囲の「手段と目的の連鎖」しか知らされずに仕事をしたりしていることは多いのではないか。それは、囚人に与えられる拷問と五十歩百歩かもしれない。

第二の教訓は、自分の仕事は私の幸福や私たちの幸福とどうつながるのかを考えるということだ。先に述べた「手段と目的の連鎖」はどこまでも無限に続くのかというとそうではない。哲学者のアリストテレスによれば、「……のために」という目的の連鎖は「なぜなら幸福になりたいから」という目的にすべて帰結する。

たとえば、朝に洗面所で身だしなみを整えている大学生を考えてみよう。「何のために顔を洗ったり、髪をとかしたりするのか」「学校に行くためだ」「何のために学校へ行くのか」「良い仕事に就くためだ」「何のために良い仕事に就きたいのだ」という問いかけの連鎖は「良い人生を送りたいためだ」となり、それは「幸福でありたいためだ」と同じことを意味する。

同様に、社員が現在している仕事に着目し、その目的を掘り下げていけば「良い人生を送りたいためだ」となる。そして、それは「幸福でありたいためだ」というところに行き着く。

自分がしている仕事は、私の幸福や私たちの幸福とどうつながっているのだろうか？

(出典：戸田智弘：ものの見方が変わる座右の寓話、ディスカヴァー携書 236、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2022年より抜粋)

設問1 筆者の考察の内容について、簡潔に述べなさい。(400字以内)

設問2 この寓話を読んだあなたの考察を述べなさい。(600字以内)